

## 令和5年度事業報告

令和5年度は、令和5年3月にリニューアルオープンした匠ギャラリーの来場者が令和元年度比で3倍以上に増加し、改装前は少なかった若年層や訪日外国人観光客も増える等順調な滑り出しとなった。

一方で、令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行後、来場者の安心安全に最大限配慮し、質の高い音楽・舞台芸術の鑑賞機会を提供したが、ご高齢のお客が多いランチタイムコンサート等ではチケットの販売が伸び悩んだ。また、貸館の稼働率は回復傾向にあるものの、施設によってはコロナ禍前の水準まで戻っていない。

こうした中、「第5次中期経営計画」の方針である「県民の心豊かな生活及び活力ある地域社会の実現」を目指し、年齢、性別、障がいの有無、経済状況等に左右されることなく、あらゆる人が等しく文化を享受できるための各種事業を実施した。

### I 組織・運営

公益財団法人としてコンプライアンスを遵守し、適切な財団運営に取り組むとともに、福岡県文化芸術振興条例の目的の実現に向け、組織体制の充実を図った。

#### 1 組織体制の充実

福岡県文化芸術振興条例に沿った事業を限られた人員で効率的・効果的に実施するため、組織の枠組みを超えて設置したプロジェクトチームにおいて、令和6年度の開館30周年事業に向けた議論・検討を実施したほか、社会包摂推進等に取り組んだ。

#### 2 財政基盤の維持

事務の効率化、事業経費削減に取り組んだ。貸館の利用料金収入やチケット収入はコロナ禍前の水準まで戻っていないが、光熱費の高騰に伴う指定管理者の負担軽減として県から補助金が交付されたこと、また、文化庁の文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業）が採択されたことから、財政状況が改善した。

#### 3 人材育成の推進

財団に求められる役割を共有するため、全職員を対象に事業計画及び予算を周知する研修をはじめ、性的少数者当事者を招いて研修を実施する等社会包摂についての知識の習得に努めた。

また、外部講師による研修のほか、アートマネジメント研修等の外部主催研修も活用

して職務能力の向上を図り、中長期的な視点で財団を担う人材の育成に取り組んだ。

## II 施設サービス（貸館）事業

施設稼働率は徐々にコロナ禍前に戻ってはきたが、福岡シンフォニーホール、国際会議場、円形ホール及び中小会議室は他施設に比べ稼働の回復状況が遅れている。回復が遅れている要因として、会議室ゾーンの主要利用目的である学会・国際会議等では、「国内学会は2～3年先」「国際会議は3～4年先」の開催となること、福岡シンフォニーホールの利用目的であるコンサートは2年前からの利用受付となることが考えられる。

このような中、引き続き日常的な防火・防災についての研修・訓練を実施し、防火・防災体制の強化を図った。併せて、「個別施設計画」に基づく計画的な維持・保全に努めた。

### 1 積極的な営業誘致

- (1) 国際会議や国内学会誘致に向け、福岡観光コンベンションビューローとともに見込み顧客への提案・打合せ・下見同行等を頻度を増やして行った。また、誘致活動に向けた協議も積極的に行った。
- (2) 周辺類似施設との情報交換による営業情報収集と会議専門代理店（PCO）への誘致活動を行った。
- (3) 国際会議場、大会議室、中小会議室の利用促進に向け、これら施設の利用が想定される新規及び休眠利用者に対し、令和6年1月15日に対象施設の見学会を実施し、42団体（87名）が参加した。

〈大型イベントの開催件数〉

誘致内容	令和3年度	令和4年度 (a)	令和5年度 (b)	増減 (b-a)
学会・国際会議開催件数	9	19	15	-4
合同就職説明会開催日数	18	29	31	+2

※学会・国際会議については会議内容により実施日数が大きく異なるため件数で計上、  
合同企業説明会は日数で計上

### 2 利用者サービスの充実強化

- (1) 国際会議場 客席用机の一部部材を交換した。
- (2) インボイス制度導入に際し、利用者には発行する予約書類を簡素化した。

### 3 施設機能の充実

- (1) 安全の確保・トラブルの防止を基本とした保守点検を行うとともに、施設の計画的な維持・補修のため、イベントホールの移動観覧席の一部部材の交換や円形ホールの舞台機構（ストロークセンサー）の更新を行った。

- (2) 防火・防災対策として、ビル管理会社と共同で火災・地震発生時の初動対応訓練を実施するとともに、小グループ防災研修をはじめとした日常的な防災意識・防災体制の充実強化に向けた取組を行った。

### Ⅲ 文化振興事業

音楽・舞台芸術を中心とした文化芸術の振興を図るため、「グローバルな感動体験」、「演奏家・聴衆・事業運営者など事業を支える人の育成」及び「あらゆる人が文化芸術に触れる機会の創出」の3つの事業理念を掲げ、バランスのとれた事業展開を行い、計71事業を実施した。

質の高い音楽・舞台芸術の鑑賞機会を提供したほか、「福岡ジュニアオーケストラ」等の青少年を対象とした育成事業に幅広く取り組んだ。また、県内どこに住んでいても質の高い音楽・舞台芸術を気軽に鑑賞できるよう、「ミュージック・キャラバン」等地域へのアウトリーチ事業を展開したほか、特別支援学校を対象とした「学校キャラバン特別授業」等、社会包摂事業も実施した。

こうした事業を通して、アクロスをより身近に感じていただけるよう取り組んだ。

#### 《3つの理念に基づく事業展開》計71事業

##### ○ グローバルな感動体験

(質の高い音楽・舞台芸術の鑑賞機会の提供)

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団 (Vn: 五嶋みどり)、ウクライナ国立フィルハーモニー交響楽団、ヨーヨー・マ&キャサリン・ストット デュオリサイタル等31事業を主催・共催した。

##### ○ 演奏家・聴衆・事業運営者等事業を支える人の育成

(次世代を担う若い音楽家とそれを支える人の育成と環境整備)

学校キャラバンやミュージック・キャラバンといったアウトリーチ事業やランチタイムコンサート、福岡ジュニアオーケストラ、ヴァイオリンセミナー等20事業を主催・共催した。

##### ○ あらゆる人が文化芸術に触れる機会の創出

(あらゆる人が等しく文化芸術を享受できる場として機能するため、多様な分野と協働・連携した事業を展開)

クラシックふえすた、新・福岡古楽音楽祭等で音楽普及事業を実施したほか、誰もが等しく文化芸術を享受できる社会包摂事業である学校キャラバン特別授業、音の懸け橋では、特別支援学級・学校へ訪問する等20事業を主催・共催した。

#### 1 質の高い一流の音楽芸術やクラシック音楽に触れる機会の提供

##### (1) ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団

世界屈指のヴァイオリニスト・五嶋みどりがアクロス福岡へ14年ぶりの登場。シューマン、ブラームス、ドイツロマン派の真髓を存分に披露した。

(2) ヨーヨー・マ&キャサリン・ストット

名実ともに世界最高峰のチェリストであるヨーヨー・マがアクロス福岡へ19年ぶりの登場。人気に違わず、チケットは早々に完売した。

(3) The Real Chopin×18世紀オーケストラ

第16回ショパン国際ピアノ・コンクール優勝者ユリアンナ・アヴデーエワら、世界トップクラスの演奏家による演奏会を実施。ショパンらが活躍した18世紀の楽器・演奏技法を追求し、当時の音楽を限りなく再現した貴重な音楽体験を聴衆に提供することができた。

(4) ランチタイムコンサート

昼間の需要に対応した気軽に音楽を楽しめるコンサート事業。チケット料金を安価(1,000~1,500円)に設定し、ホールでの鑑賞体験を促す事業として、6事業を実施した。

(5) アクロス・クラシックふえすた

クラシック音楽に気軽に親しみ、一日中家族連れで楽しめるよう、アクロス館内のホールを会場に無料のミニコンサートやヴァイオリン体験等音楽に関するイベントを開催した。企業と連携して楽器の展示や管楽器の製作工程の実演を行い、学生や音楽愛好家等多くの県民が来場した。有料のメインコンサートでは、九州交響楽団とヤマハ吹奏楽団の演奏会がほぼ完売し、2日間で1万7千人を超す来場者を集めた。

(6) 新・福岡古楽音楽祭

古楽(バロック)音楽の魅力を発信する音楽祭。プロによるマスタークラス・古楽セミナーやアマチュア演奏家の披露の場となる古楽ステージを実施した。また、新・福岡古楽音楽祭10周年記念コンサートとして、古楽のスペシャリストによる演奏会「バロックの三大巨匠」を開催する等、古楽音楽を現代に繋ぐ多様な3日間となった。来場者は7千人を超えた。

## 2 青少年を対象とした事業の実施

(1) 福岡ジュニアオーケストラ

県内小学生から高校生の楽器経験者向けのオーケストラ活動を実施したほか、「福岡ジュニアオーケストラアカデミー」では小・中学生の楽器未経験者の音楽体験をサポートした。

(2) 舞台芸術感動体験事業

県内の小・中学生約2,500人が福岡シンフォニーホールで九州交響楽団の演奏を体感した。

(3) 青少年等音楽サポート事業

公募により選定した県内6団体（大学、高校）の定期演奏会に共催し、助成を行った。

(4) 子ども無料招待【文化庁 子供文化芸術活動支援事業】

新型コロナウイルス感染症の影響下において、鑑賞・体験の機会が失われている多くの子どもたちに、本格的な舞台公演に触れる機会を回復する取組として、文化庁の補助金を活用し、18歳以下の子どもたちを以下の公演に無料招待した。

- ・ウクライナ国立フィルハーモニー交響楽団
- ・The Real Chopin×18世紀オーケストラ

3 音楽を通じた社会包摂への取組

(1) 特別支援学校等を対象にした音楽の出前授業の実施

特別支援学級・学校を対象に、パーカッション奏者等を派遣する参加型の特別授業「学校キャラバン特別授業」や「音の懸け橋」を実施した。

(2) 知的・発達障がい児を対象とした劇場体験プログラム「劇場って楽しい!!」の実施

社会包摂事業を実施するために立ち上げた「九州ネットワーク会議」を通じて、企画から研修、当日の運営まで県内外のホールと協働で実施し、アクロス福岡の持つ知見や運営ノウハウを共有した。

4 アウトリーチ事業の充実

県内の小学校へヴァイオリンとピアノの演奏家を派遣し、楽器演奏体験をメインとした出前授業「学校キャラバン」を実施した。また、美術館等と連携した「ミュージアムコンサート」、県内文化施設と協働した「ミュージック・キャラバン」を実施した。

5 チケット販売の促進

クラシック音楽ファンの拡大を図るため、WEBメンバーズに対し、先行発売特典に加え、公演を限定したWEB特別優待価格の設定等を実施し、登録者数の更なる増加を試みた。WEBメンバーズ登録者数：9,380名（令和5年3月末現在）→18,416名（令和6年3月末現在）

6 ホール・施設間の連携強化

公立文化施設間で社会包摂事業の研修連携を図る「九州ネットワーク会議」、九州のホール間連携を図る「九州類似ホール連絡会議」及び全国の類似ホールと情報共有を図る「コンサートホール企画連絡会議」に参加し、企画の提案や課題を共有した。

## IV 情報提供事業

伝統工芸や地域文化の振興に取り組む自治体や団体に対して発表の場を提供し、活動

の支援と交流の促進を図るとともに、県民に文化の鑑賞や体験の機会を提供した。また、文化芸術団体、文化施設、まちづくり団体、観光分野等地域との連携による、伝統工芸や地域文化、県内各地域の魅力の発信を通じ、にぎわいづくりと地域振興に努めた。さらには、障がいのある人に対し、文化芸術の鑑賞や創造の機会、作品等を発表する場を提供し、障がい者の文化芸術活動を支援した。

## 1 伝統工芸品の普及と地域文化・生活文化の推進

### (1) 匠ギャラリーの活性化

- ・ 国、県指定工芸品の常設展示や週替わりの企画展、リニューアル1周年記念イベントを実施したほか、地域の食と文化を発信するカフェやショップを運営した。
- ・ 工芸作家が気軽に作品を展示販売できる「FUKUOKA KOUGEI 50」を通年で実施した。
- ・ 風土や歴史を背景に育まれた食文化の紹介等、工芸品以外の文化的集客イベントを実施し、活性化を図った。
- ・ 新たに作成した英語パンフレットを近隣ホテルや駅等に配架し、インバウンドの取り込みを行った。

### (2) インバウンドを見据えた伝統工芸品と地域文化・生活文化の魅力発信

- ・ 世界マスターズ水泳選手権 2023 九州大会の開催にあわせ、茶道や書道、さげもん等の体験ブースを設置し伝統文化の振興を行った。

### (3) 次世代への継承

- ・ 子どもを対象にした「夏休み子ども手作り体験」や小学生の社会科見学、制作体験の受け入れを行った。

## 2 文化・情報の交流拠点づくり

### (1) 多様な主体と連携した情報の発信

- ・ イベント情報発信サイト「アクロスおでかけナビ」において、音楽や舞台芸術イベント、体験ツーリズムやスポーツイベント、オンラインイベント等を配信した。また、イベントを主催する団体や個人の情報発信の場として活用した。
- ・ 県文化財保護課と連携し、九州各県で伝承されている民俗芸能を披露する民俗芸能大会を開催した。
- ・ 自治体と協働し、地域の文化や観光資源等を展示パネルやワークショップ等を介して多面的に紹介した。
- ・ 非営利の文化施設やNPO団体等を対象に、地域文化や観光PRの場所として週替わりでパネル展示スペースを提供した。

### (2) あらゆる人が文化を享受できる環境整備

- ・ 九州障害者アートサポートセンターと協働し、障がいのある人の文化芸術活動を支援し、公募展やステージパフォーマンス等を開催した。
- ・ 特別支援学校と協力し、アートでさまざまな表現を行う学生たちの作品や活動を紹介する企画展を開催した。
- ・ 里親家族を対象に、より文化芸術に親しみやすいよう里親家庭が住む近隣の施設へ出向き、アート×ダンス等体験型イベントを実施した。
- ・ メッセージホワイエ等を活用し、文化活動者に作品発表の場を提供した。

### 3 にぎわいづくりと地域振興・観光振興

#### (1) 文化と伝統を生かしたにぎわいのまちづくり

- ・ 米や酒等、福岡の食文化をテーマにした企画展やワークショップ、講座を開催した。
- ・ 子どもを対象に、かるた等の伝統遊びや生活文化を体験しながら学ぶ場を創出し、地域に根付く伝統文化や生活文化等の鑑賞や体験、学びの場を創出した。
- ・ サイクルツーリズムや截金等、地域や文化の振興に独自のスタイルで取り組む人々によるトークショーを開催し、文化の楽しみ方等を提案した。

#### (2) 観光案内所の魅力向上

- ・ 旬な情報をわかりやすく届けるため、ジオパークや酒蔵開き等をテーマに特集コーナーを設けて情報発信に努めた。
- ・ AI翻訳機を活用し、より多くの言語に対応した。
- ・ 県内外の自治体や民間企業等が観光資源を活用して実施するイベント情報を収集し、アクロス福岡が運営する「アクロスおでかけナビ」で提供した。

### 4 効果的な広報の実施

- (1) WEBメンバーズへのメルマガ配信を定期的に行い、チケット発売や公演情報等、購入者に向けてよりダイレクトな情報発信に努めた。
- (2) 公演・イベント情報のほか当日のチケット情報、アウトリーチ事業、文化イベントに係る情報をホームページやSNSによりタイムリーに提供した。
- (3) アクロス福岡おすすめ公演をコンパクトな季刊で発行し、館内やチケット購入者に配布した。
- (4) 毎月定例記者発表を開催したほか、市政だよりやWEB関連サイトへのパブリシティ掲載に努めた。(広報掲載件数 1, 274件)